

2018-8-3 ワニの肝臓

高野真帆

提出機関

ルイジアナ州立大学（アメリカ）

症例

アメリカアリゲーター (*Alligator mississippiensis*)、若雌

病歴

- 5000匹の群れの5匹で食欲不振。
- 死亡率の上昇はなし。
- 本農場では以前、ワニのクラミジア症の発生があった。



<https://pz-garden.stardust31.com/hacyuurui/wani/alligator/american-alligator.html>

肉眼所見

- 体重2.8kg（削瘦なし）
- 肝臓割面が淡黄色～緑色
- 心外膜に1mm大の淡黄色斑が多発
- 脾臓の肥大(通常 of 2倍)、割面が暗赤色膨隆
- 透明な腹水の軽度貯留
- 気管下部に少量の赤色をおびた液体が貯留

検査結果

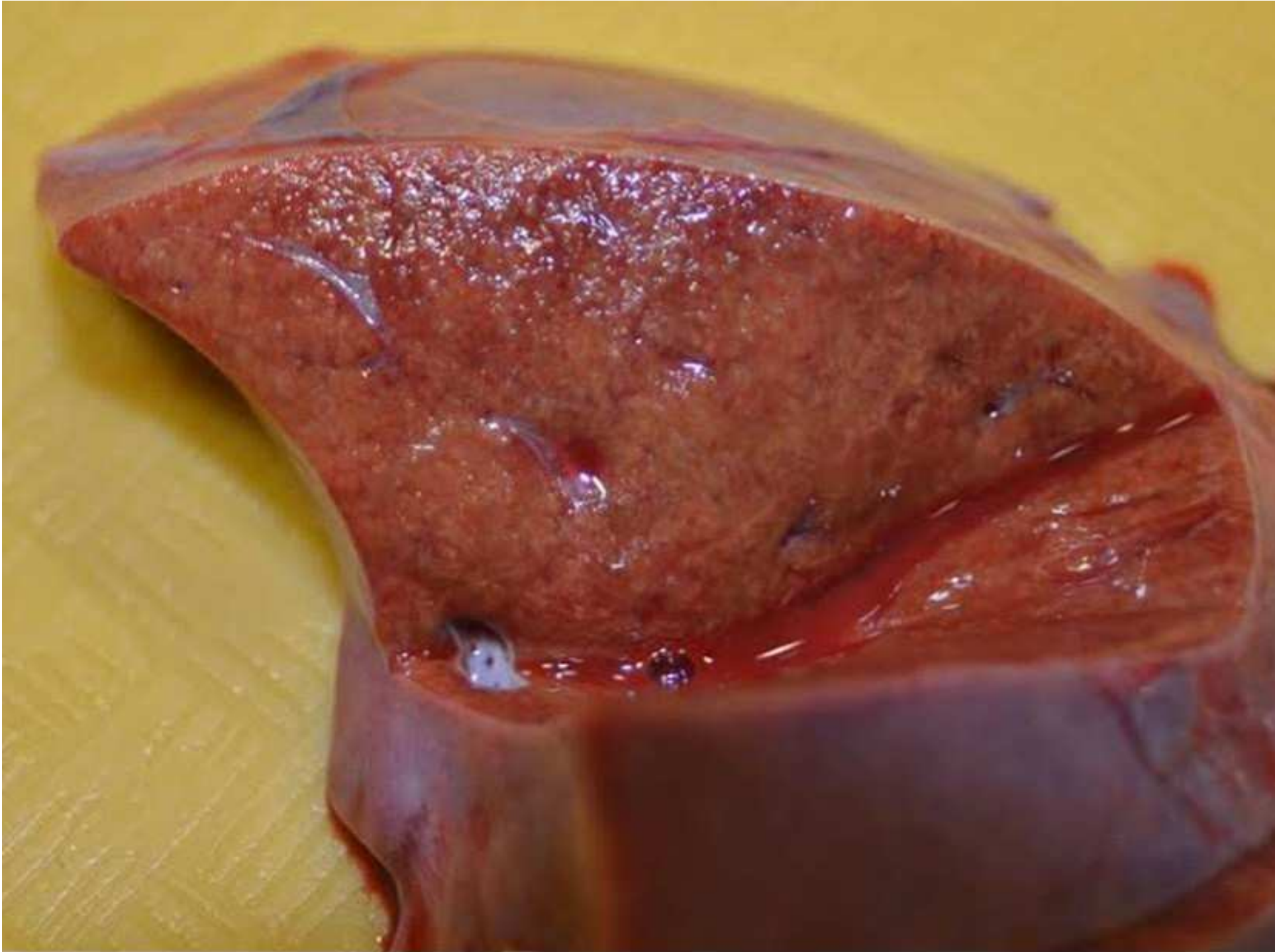
◆ PCR

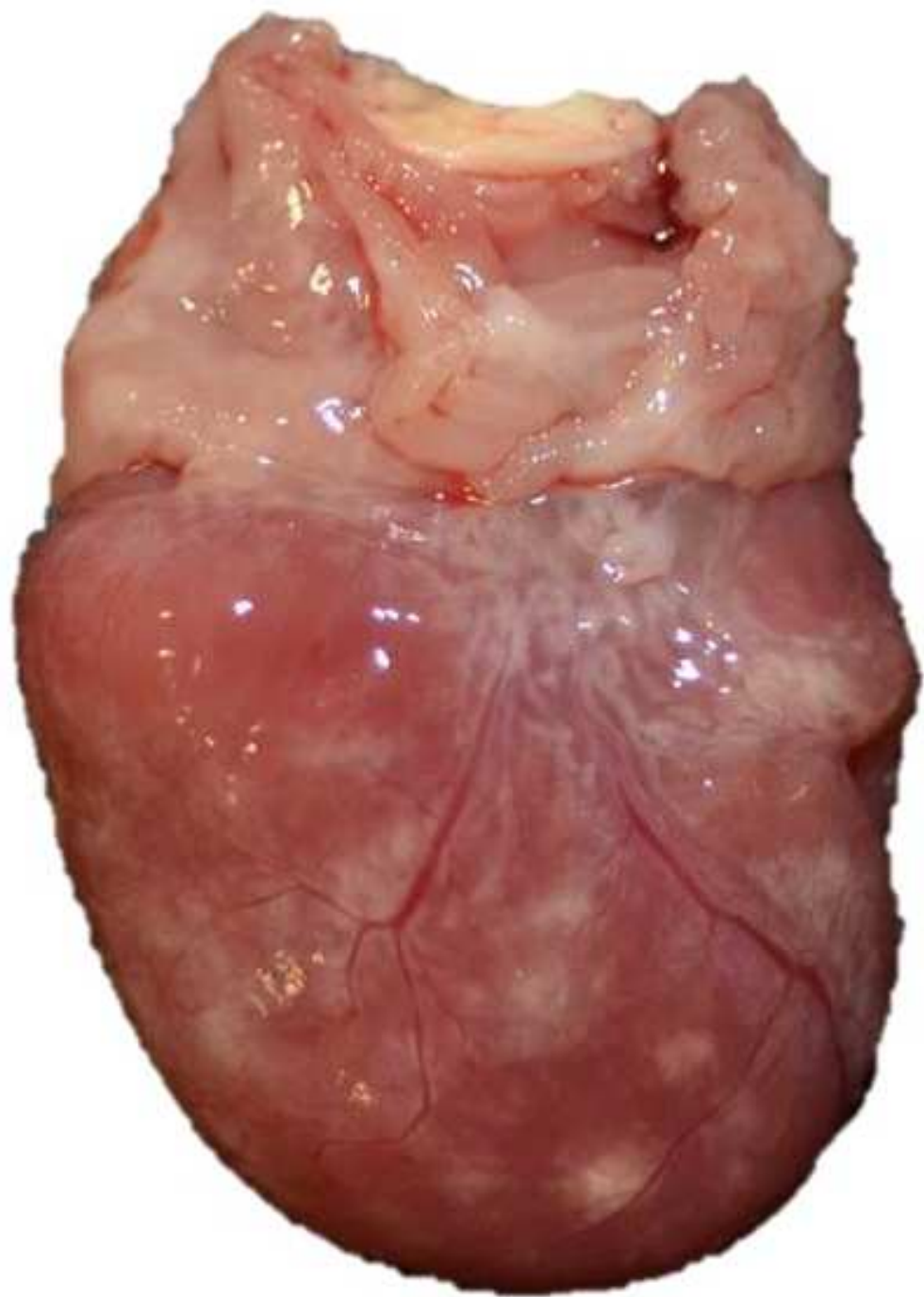
肝臓、心臓、結膜、結膜スワブ：クラミジア科陽性

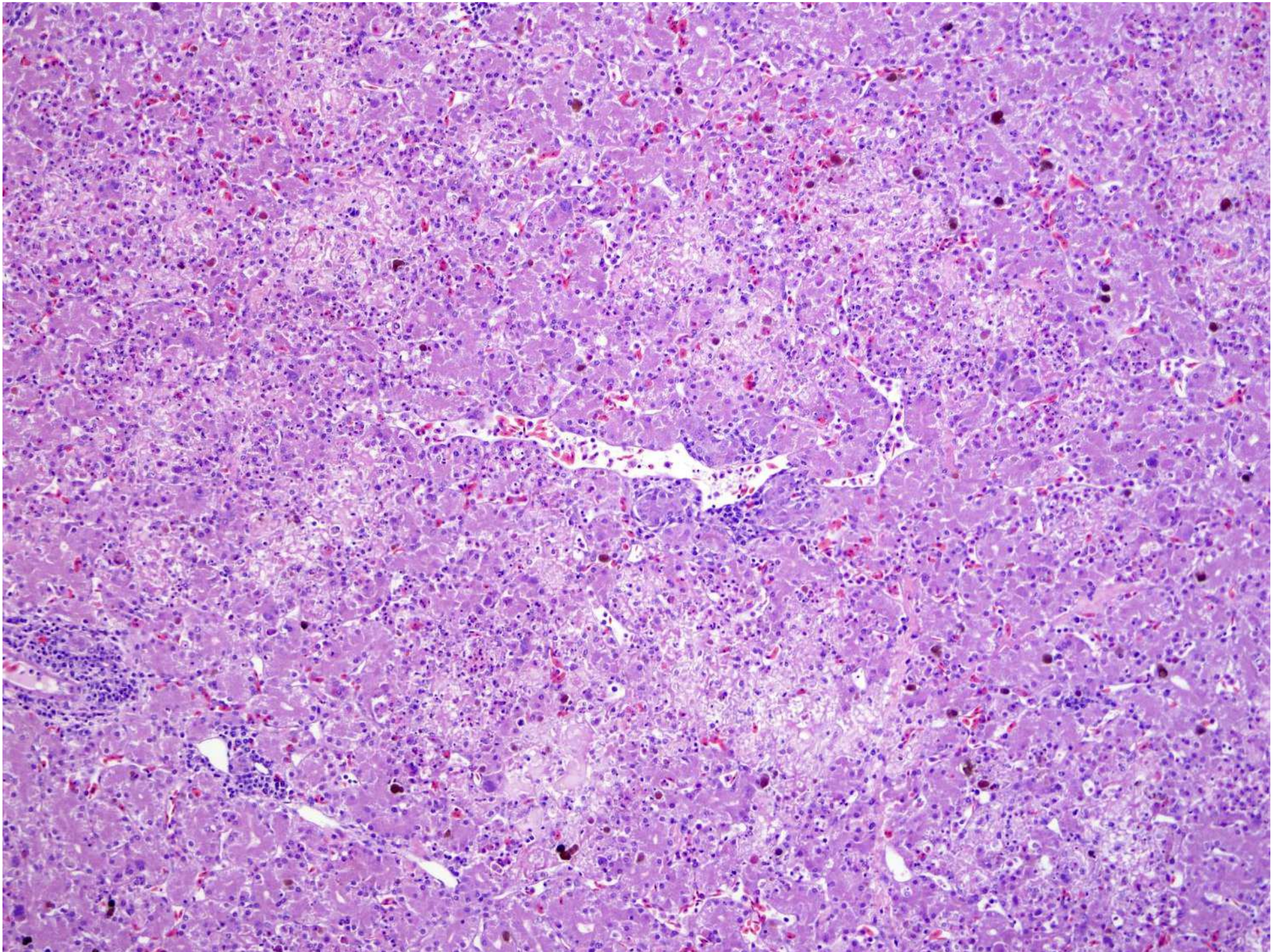
肝臓、腎臓、心臓、脳、脾臓：ウエストナイルウイルス陰性

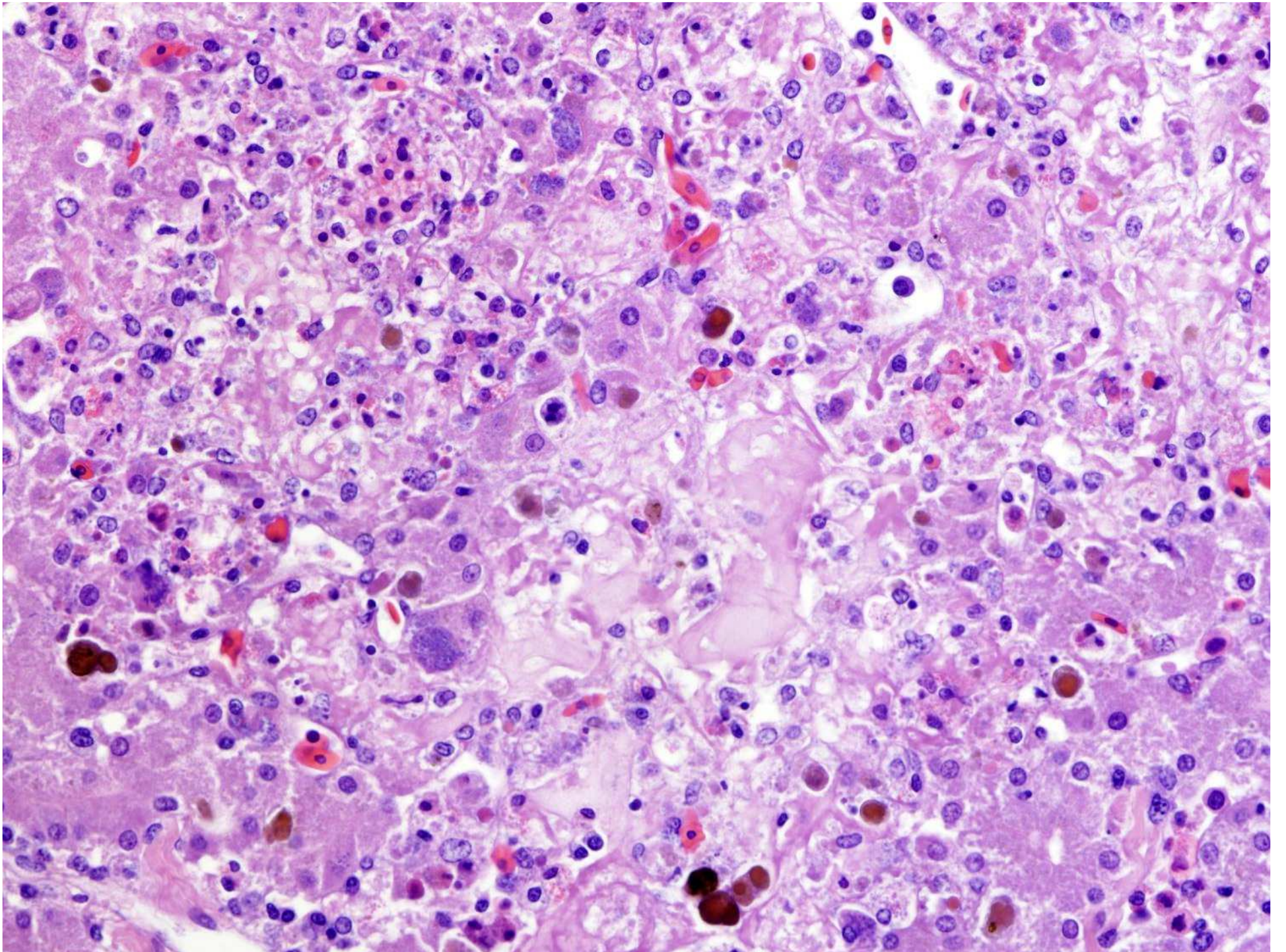
◆ 病理組織学的検索（肝臓組織の微生物）

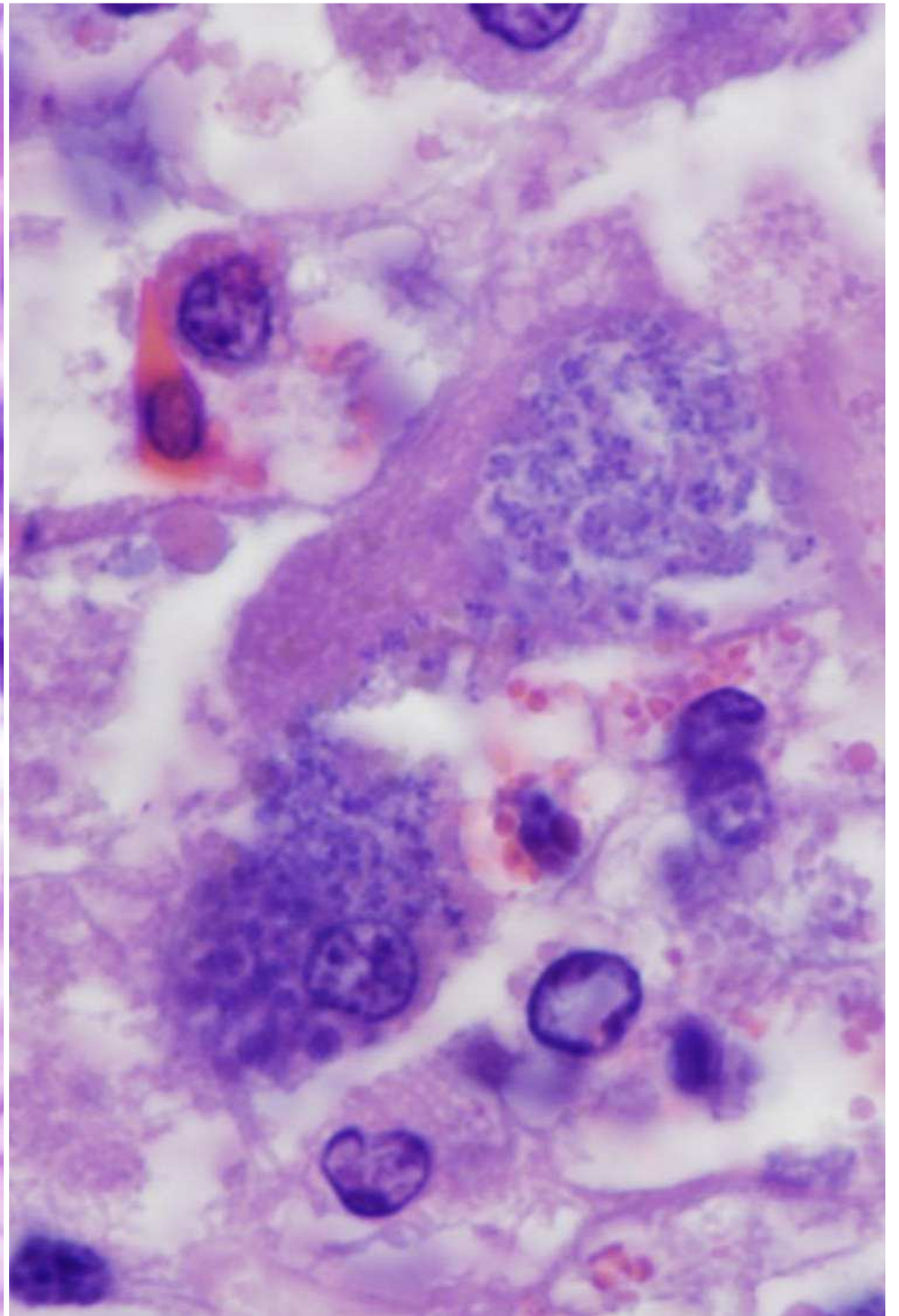
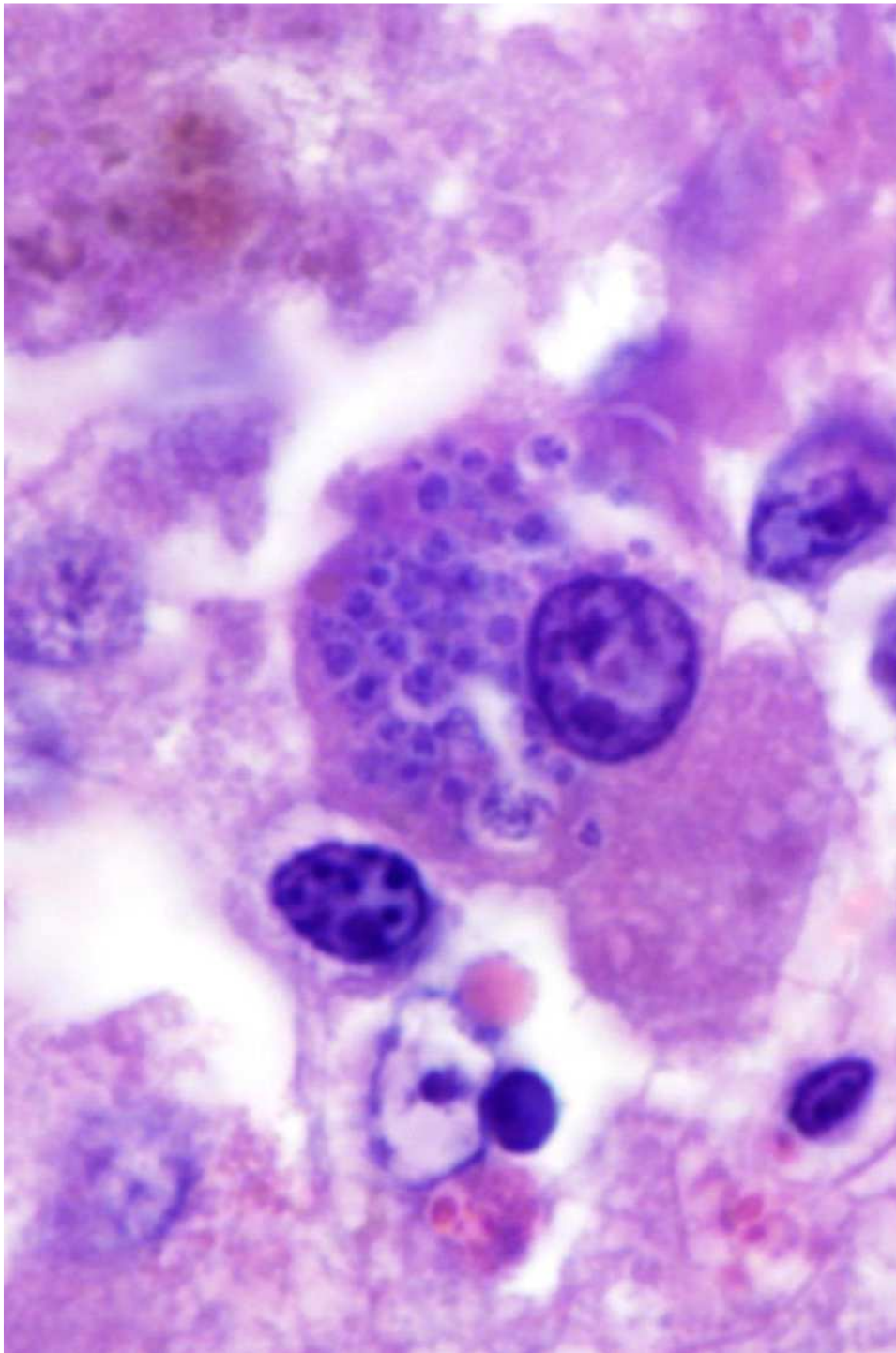
- ヒメネス染色陽性
- モノクローナル抗クラミジアリポ多糖抗体陽性



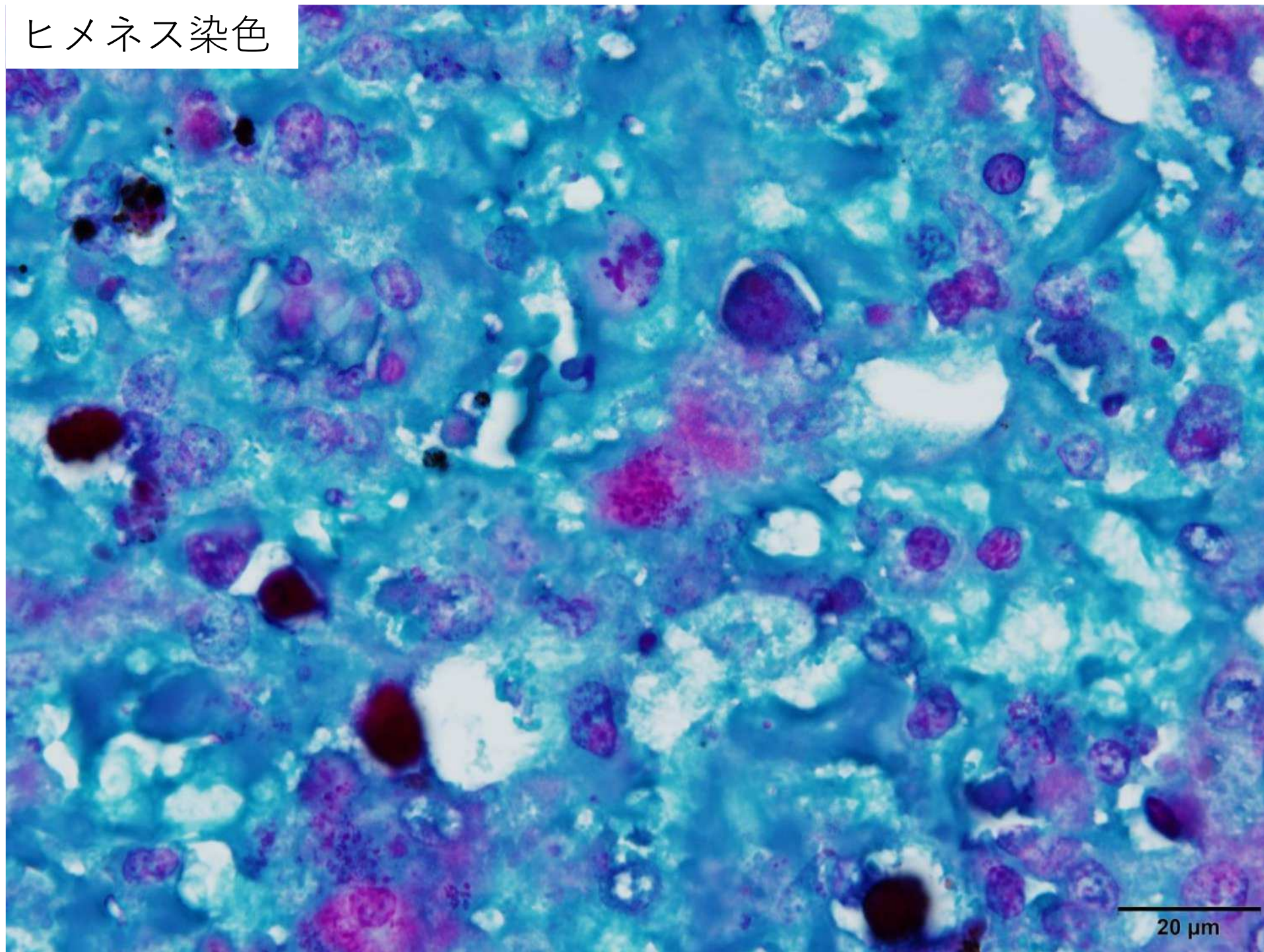








ヒメネス染色



提出者の診断

肝臓：肝炎、壊死性、多巣性から融合性、顕著、急性。
肝細胞内に球桿菌を伴う。

Liver: Hepatitis, necrotizing, multifocal-to-coalescing, marked, acute, with intrahepatocellular coccobacilli.

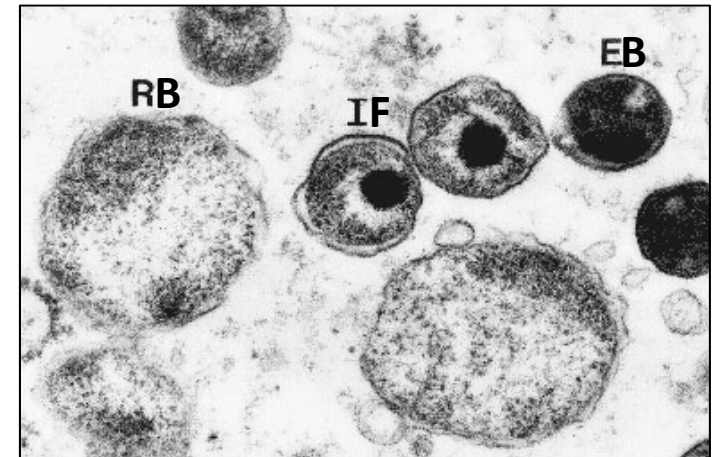
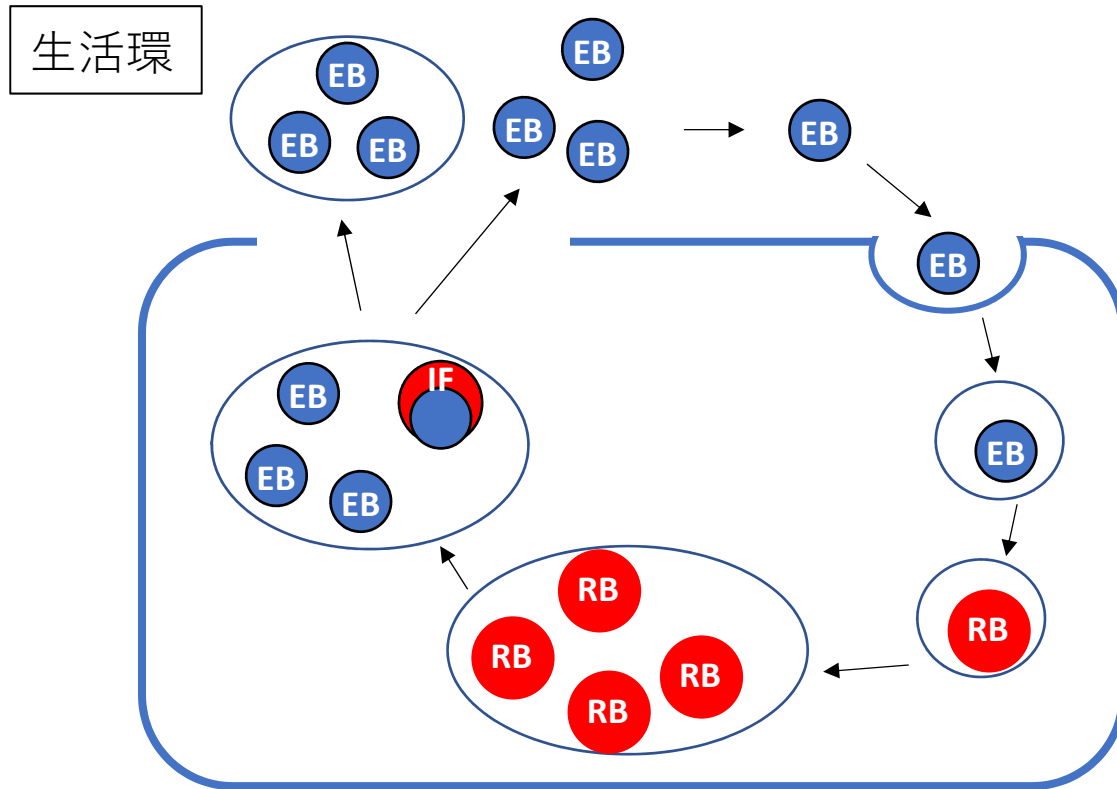
JPCの診断

肝臓：肝炎、壊死性、多巣性から融合性、重度。
まれに肝細胞内細胞質内に細菌性封入体を伴う。

Liver: Hepatitis, necrotizing, multifocal to coalescing, severe, with rare intrahepatocellular intracytoplasmic bacterial inclusions.

クラミジア

- ・ 偏性細胞内寄生菌で、脊椎動物や節足動物、自由アメーバを含む多くの宿主に寄生する。種によって、形態、宿主特異性、病原性が異なる。



PMID: 10756157

- EB : 基本小体 (約0.3 μ m)
- RB : 網様体 (約0.5~1.5 μ m)
- IF : 中間体

- ・ 偏性細胞内「エネルギー寄生菌」として知られる。
- ▷ ATPの供給を専ら宿主細胞に依存すると考えられてきた。近年、解糖系やペントースリン酸経路など、ある程度のエネルギー産生能があることが明らかになった。

クラミジア症

- 哺乳類では*C. psittaci*によるオウム病や*C. abortus*による流産が重要。
- クラミジアは、ほ乳類以外に、鳥類、両生類、爬虫類も標的にする。
 - ▷ 爬虫類のクラミジア症では、脾臓、心臓、肺、肝臓等の肉芽腫性炎が特徴。
*C. pneumoniae*や*C. psittaci*が原因となっている。
重度の咽頭炎、結膜炎を特徴とする症例もある。

本症例の農場におけるワニのクラミジア症について

- 全身性、致死性感染で、今回の症例と類似の病変が観察された。
 - ▷ 壊死性偽好酸球性肉芽腫性の肝炎、心筋炎、心膜炎
- 原因として*C. psittaci*と86%の相同性をもつ新しいクラミジア種が検出。
(OmpA遺伝子シーケンスを用いたPCR)
- またシャムワニやナイルワニで、今回の症例と類似の病変を示すクラミジア症の報告があり、既知の種と異なるクラミジア種が検出されている。